

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

2022年4月に「熊日SDGs宣言」を行い、社としてSDGsを推進すると宣言した。企業理念に「熊日は、人と自然の共生を求め、こころ通う社会の実現を目指す」とうたっており、SDGsとの親和性は高い。「くまもとSDGsアワード」の創設など、具体的な取り組みを積み上げており、自社のSDGs達成を目指すだけでなく、新聞社の特徴を生かし報道やキャンペーン、イベントなど全機能を挙げて熊本県全体のSDGs達成を働きかけることにも意識して取り組んでいく。

<SDGsに関する重点的な取り組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取り組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 経済	熊本の植生、畜産、水源涵養、地下水、河川、海洋へと至る生態系循環の要にある阿蘇の草原の保全に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・野焼きの継続を支援する。 ・阿蘇草原再生キャンペーンを推進する。 ・肥後の水と緑の愛護基金と連携した水田涵養事業の実施によって、年間21万トンを目標に貯水し、地下水の保全に取り組む。 ・水田涵養事業による貯水量 2023年度 21万トン → 2026年度まで継続して毎年21万トンを目標
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	地域の企業と連携して「食品ロス解消事業」の実証実験を実施し、地域の食品ロスの削減につなげる。また、フードドライブの拠点作りにも取り組み、子ども食堂などの団体支援を実行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・肥後銀行と連携し、食品ロスを含む「地域のロス解消事業」の実証実験を展開する。開発したLINEアプリを通じて、パンなど賞味期限が迫る食品を割安で販売している。熊本市中心部で普及啓発イベントも年3回程度開催する。 ・販売局、販売店と連携したフードドライブの拠点整備を進め、2024年度から2025年度にかけて、熊本県内に少なくとも3カ所の拠点を作る。 ・普及イベントの開催 2023年度 0回 → 2026年度 3回目目標 ・フードドライブの拠点整備 2023年度 0カ所 → 2026年度 3カ所目標
<input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	意欲的な農業経営を顕彰し、受賞者の取り組みを報道、紹介することで、生産性向上を支援し、若手農業者の育成にもつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年から2026年の3年間にわたって熊本県農業コンクールを毎年、計3回開催する予定。また、農業コンクールの実施に合わせて、毎年、計3回農業コンクールの特集紙面を作成し、熊本県内に発信する。 ・熊本県農業コンクールの開催(年間) 2023年度 1回 → 2026年度 1回 ・農業コンクール特集紙面の発信 2023年度 1回 → 2026年度 1回

<パートナーシップ>

熊本県、熊本市とSDGs推進に関する連携協定を締結し、熊本県のSDGs推進に寄与する取り組みを推進している。また、肥後銀行、鶴屋百貨店、イオンモールともSDGsに関する協定、覚書を締結するほか、民間企業とも同様の取り組みを実行している。阿蘇の草原再生キャンペーンでは熊本県、九州農政局、財団法人阿蘇グリーンストック、地元放送局などと「阿蘇草原再生千年委員会」を結成し、取り組んでいる。その他、肥後銀行や熊日の販売店と熊日で連携し、食品ロス削減に向けて取り組みを進める。農業コンクールは、熊本県および農業関係10団体と共同で主催し、継続していく。

- ・「SDGsに関する重点的な取り組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取り組みを記載してください。なお、取り組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
- ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取り組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
- ・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 経済	<p>・熊本の植生、畜産、水源涵養、地下水、河川、海洋へと至る生態系循環の要にある阿蘇の草原の保全に取り組む。 →阿蘇の草原保全に関する特集を朝刊にて掲載するなど、啓発・啓もう活動を実施した。阿蘇の野焼きについても記事化し、広く周知した。</p>	<p>・野焼きの継続支援 ・阿蘇草原再生キャンペーンへの参画</p>	<p>・熊本日日新聞朝刊で、阿蘇の草原保全や野焼きなど、阿蘇の草原再生に関する記事、特集を、349本掲載した。 (2022年4月1日～2024年6月30日)</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>・賞味期限の迫った食品を集め、廉価販売し、食品ロスの削減につなげる。フードドライブも開催し、子ども食堂に無償提供する。 →食品ロス削減を目指した賞味期限が近い食品の即売会を、熊本ネクストソサエティと連携して実施するなど、フードドライブも適宜開催した。</p>	<p>・マルシェ(廉価販売会)の開催(年間8回以上) ・子ども食堂への食材提供</p>	<p>・上通びふれず広場にて、即売会を37回実施した。後日記事でも掲載し、食品ロス削減につながる具体的な事業展開と記事による啓もうに努めた。(2019年7月～2023年11月)</p>
<input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>・意欲的な農業経営を顕彰し、受賞者の取り組みを報道、紹介することで、生産性向上を支援し、若手農業者の育成にもつなげる。 →毎年、熊本県、県農業会議、JA熊本中央会、JA熊本経済連、JA共済連熊本、県酪連、JA熊本果実連、県畜連、県たばこ耕作組合、県畜産協会、農林中央金庫熊本支店と連携し、主催として「熊本県農業コンクール」を開催し、県内の農業振興に寄与した。</p>	<p>・熊本県農業コンクールの開催(毎年実施) ・農業コンクール特集紙面の発信</p>	<p>・熊本県農業コンクールを毎年開催し、開催に合わせた別刷り特集や朝刊特集を発行するなど、事業展開と合わせて特集による周知を推進した。</p>

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。